

令和6年度 支援学校 仙台みらい高等学園の研究概要 ～令和7年1月末現在～

運営委員氏名 (福田 陽香)

研究テーマ	生徒が社会で輝くための授業づくり～個別最適な学びと協働的な学びを通して～(3カ年計画)
研究目標	1) アセスメントの結果と行動観察の結果を基に生徒の実態を整理することができる。 2) 教職員の授業実践、寄宿舍での支援方法の収集、分析を行うことができる。
研究内容・方法 研究計画等	【内容及び方法】 1) アセスメントの結果と行動観察の結果を基に生徒の実態を整理することができる。 検証方法①：必要な支援、教具を生徒別に整理 検証方法②：ケース検討時に検証(常勤教員) 2) 教職員の授業実践、寄宿舍での支援方法の収集、分析を行うことができる。 検証方法：研究授業及びケース検討時に検証(常勤教員) 【計画】 4月 教職員研修 5月 ケース検討 6月 教職員研修／寄宿舍検証／ケース検討 7月 ケース検討／教職員研修 8月 発達障害児・者の支援者のための基礎研修 10月 ケース検討／寄宿舍検証／教職員研修 11月 ケース検討／研究授業 12月 寄宿舍検証 1月 ケース検討／教職員研修 2月 ケース検討 3月 ケース検討／寄宿舍検証
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	・ケース検討は学校全体から2人、寄宿舍検証は3人を抽出し、課題解決に向けた支援、指導について学校教職員と寄宿舍職員で協議を行った。 ・寄宿舍検証は設定した自立に必要な課題に対して、支援、環境設定を行うことによる変容を記録し、その成果について協議した。検証後は、教員の助言を基にし、日常の指導・支援に活用。定期的に評価、見直し、実践を繰り返した。 ・KABC-II、Vineland-IIのアセスメントの結果と行動観察の結果を基に研究授業を行った。 ・授業後はFBを実施し、指導、助言を活かし、更なる支援力向上を目指し課題の洗い出しを実施した。 ・3月には「アセスメントの結果と行動観察の結果を基に生徒の実態、教員の授業実践の収集、分析」について成果をまとめる予定。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。